



水田農業経営確立対策の確実な推進を図ろう。  
直播栽培等新技術の導入と地域性を活かした米づくりを進めよう！

# 平成12年度

# 稻作情報

会津版  
第4号

平成 12年 7月 7日

「ふくしま新世紀農業・農村確立運動」県推進本部

発行：福島の米稲作情報編集会議  
編集：福島県農業試験場会津支場

## 基本技術を励行し、安定多収・良質良食味の会津産米の更なる向上を図ろう 1カ月予報（6月30日仙台管区気象台発表）

梅雨前線の活動は不活発。オホーツク海高気圧の影響で太平洋側を中心に低温の時期がある見込み

7月8日～7月14日：日本海側は晴れの日が多いが、太平洋側は曇りの日が多く低温となる見込み。

7月15日～7月28日：日本海側は晴れの日が多いが、太平洋側は曇りの日が多い。平均気温は平年並の見込み。

## 移植栽培の当面する技術対策のポイント

草丈長く、葉齡進み、葉色は急激に低下

## 倒伏防止と栄養管理、いもち病防除の徹底！！

### 1 生育状況

(1)試験場内の生育：草丈は平坦部、高冷地とも平年より10%以上長い。平坦地の茎数は平年よりやや少ないが早期に確保された。高冷地の茎数は平年より3～5%多い（表1）。主稈出葉からみた生育は平坦部高冷地とも2～4日進んでいる。平坦部の初星は7月5日、ひとめぼれは8日で幼穂形成始期になり、平年より5日早まった。高冷地のまいひめ、初星の幼穂形成期は平年より3日程度早まる予想である（表3）。このため、減数分裂期や出穗期も早まる予想であり水管理、肥培管理上注意が必要である。

(2)土壤中のアンモニア態窒素は、6月下旬～7月上旬にかけて急激に低下している（図1）。

(3)現地の生育：草丈は平年より長い。茎数は場間差は見られるが平年並から多い。葉色は前年並から低い傾向である。

### 2 当面の技術対策

(1)水 管 理 中干し終了後は、間断灌漑と根の健全化と地耐力を維持する。

高冷地では幼穂形成期、減数分裂期に17以下以下の気温が予想される場合は、深水管理により幼穂を保護する。水深は幼穂形成期(5～10cm)、減数分裂期(15～20cm)とする。本年は生育が進んでいるため、早めに生育ステージを確認し実施する。

(2)追 肥 草丈が長く倒伏が心配されるため、つなぎ肥は原則として行わない。しかし、コシヒカリで幼穂形成期葉色がカラースケール値3以下が予想される場合は、10a当たり窒素成分1.0kg以下のムラ直しを行う。

穗肥は、生育量と葉色により診断し実施する。基準より生育量が大きかったり葉色が濃い場合は、時期を遅らせたり、減量する（表5）。それでも、倒伏が懸念される生育の場合は、倒伏軽減剤の使用も考える。

(3)いもち病 会津地方の本田でも葉いもちが確認され、6月下旬以降、感染好適日が周期的に出現している。  
防除 葉いもちの早期発見に努め、発生を確認したら直ちに液剤か粉剤による防除を実施する。育苗箱施薬や粒剤による葉いもち予防を行ったほ場でも、発生が認められた場合は、散布剤による防除を行う。上位葉での葉いもちは、穂いもちに直結するため防除を徹底する。

穂いもち防除を粒剤で行う場合は、出穂10～20日前まで湛水状態で施用する。

(4)害虫防除 本年はカメムシの被害が懸念されるため、出穂前10日頃まで水田畦畔等の草刈りを実施する。また、蛾類の幼虫による加害が認められるため発生に注意する。

## 直播栽培の当面する技術対策のポイント

## 倒伏防止を最優先に！ 除草剤耐性雑草の防除を！！

### 1 生育状況

(1)会津支場 5月10日播きの生育：草丈は平年より長く、茎数も多い。葉数は平年より進んでいる。（表4）。  
(2)現地の生育：草丈長く、茎数多目である。散播は生育過剰田も散見され、倒伏が懸念される。

### 2 当面の技術対策

(1)水管理 倒伏防止のため中干しは長目とし、終了後も間断灌水の入水間隔を開け地耐力を維持する。

(2)肥培管理 移植栽培より倒伏し易いため、つなぎ肥は行わない。穗肥は移植より減肥しやや遅めとするか中止し、倒伏を防止する。今後の生育によっては倒伏軽減剤の使用も考える。

- (3) 雑草防除 アゼナ、ホタルイ、アメリカセンダングサ等が見られる場合はM C P剤やベンタゾン剤で防除する。M C Pを含む剤は幼穂形成期以前に使用する。特に、アゼナ、ホタルイが残草したほ場は、S U剤抵抗性雑草の可能性が高いため徹底防除する。
- (4) いもち病 防除 移植栽培と同様に、ほ場をよく見回り、早期発見、早期防除に努める。

## 具体的なデータ

表1 7月4日の生育状況（作況試験・中苗・5月19日植）

品種年次	会津支場（平坦部）				品種年次	冷試（高冷地）			
	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)		草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)
ひとめ 本年	63.8	745	10.2	41.3	まい 本年	53.3	672	9.5	41.6
ぼれ 前年	57.9	844	10.2	42.4	ひめ 前年	46.9	760	8.9	39.8
平年	57.4	821	10.1	43.6	平年	46.2	639	8.9	42.6
平年比・差	111	9.1+0.1	-2.3		平年比・差	115	105	+0.6	-1.0
コシヒ 本年	65.6	714	10.4	39.7	初 星 本年	53.2	732	9.8	39.9
カリ 前年	56.2	636	9.8	40.2	前年	46.1	795	9.6	41.6
平年	57.8	748	10.1	41.0	平年	45.8	712	9.2	44.3
平年比・差	113	9.5+0.3	-1.3		平年比・差	116	103	+0.6	-4.4

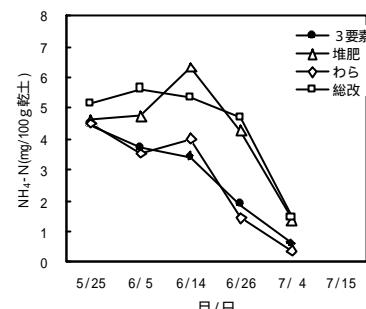


図1 土壤アンモニア態窒素の推移  
(会津支場地力試験)

表3 幼穂形成始期と減数分裂期の予想

品種	幼穂形成始期		減数分裂期
	本年	平年	
会 初 星	7. 5	7.10	7.14~7.19
津 ひとめぼれ	7. 8	7.13	(7.17~7.22)
支 コシヒカリ	(7.14)	7.20	(7.23~7.28)
冷 まいひめ	(7. 8)	7.11	(7.17~7.22)
試 初 星	(7.13)	7.16	(7.22~7.27)

注：作況試験・中苗・5月20日植

表4 湿水直播生育状況（播種後50日）(会津支場)

年次	播種日 (月.日)	苗立ち数 (本/m <sup>2</sup> )	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (葉)	積算気温	
						( )	( )
平12	5.10	98	46.4	879	8.9	971	
平11	5.10	62	34.5	447	8.0	945	
平10	5. 8	127	39.3	889	8.5	944	
平9	5. 9	135	40.6	773	8.1	969	
平8	5. 9	93	32.1	504	8.2	907	
平7	5. 9	156	31.1	579	7.4	917	
平年	5. 9	115	35.5	638	8.0	916	

注：品種 ひとめぼれ 平年値 平7~平11年

積算気温 播種日からの日平均気温積算値

表5 生育診断と穗肥の目安

	幼穂形成期				穗肥の施用時期と施用量	
	草丈 (cm)	葉 色 カラースケール	SPAD502	ヨード カリ (%)	出穂前日数 (日)	窒素成分量 (kg/10a)
平 ひとめぼれ	65~70	3.5~4.0	37~41		-24~-20	2.0
坦 地 コシヒカリ		4.0以上	42以上		-15	1.5~2.0
	65~70	3.0~3.5	34~39	55以上	-15	1.5~2.0
		3.5以上	40以上		-15~-10	1.0
高 まいひめ	60以下	4.0未満	42未満		-24~-20	2.0
冷 地 初 星	60以下	4.0以上	42以上		-15	1.0~1.5
		4.0未満	40未満		-24~-20	2.0
		4.0以上	40以上		-15	1.0~1.5

## 大豆・ソバ栽培の技術対策のポイント

### (1) 大豆

- 追肥培土 5~6葉期に達したほ場では、2回目の中耕培土を早急に行う（第1本葉節が隠れる程度）。中耕培土時に、コーティング尿素（L Pコート70）を窒素成分で6kg/10a 施用する。
- 害虫防除 病害を媒介するアブラムシ類や、高温年に多発するハダニ類を中心に防除をする。

### (2) ソバ

- 排水対策 ソバは湿害に極めて弱い。特に、転換畠ではほ場の団地化と明渠設置が有効である。
- 種子準備 種子は良く選別し、充実した種子を用いる。10a当りの播種量は、条播で3~5kg、散播は6~8kgである。
- 播種時期 播種適期は平坦部が7月下旬~8月上旬。山間部は7月中旬~下旬である。また、播種期~成熟期の日数は品種により60日~80日程度の幅があるため利用品種により播種期を調整する。